

# 骨折からの心のリハビリ

医療法人社団聖パウロ会 グループホーム明日香  
施設長 平野めぐみ

# 法人紹介

## 医療法人社団聖パウロ会

患者・利用者の立場に立って医療・福祉を実践し、地域住民の健康と生活の質をサポートします。



GH明日香



GH今日香



西遠クリニック



デイサービスMARIMO



西遠クリニック介護支援室

## 事例対象者

▶ Fさん 88歳 女性

▶ 要介護 2

▶ 病歴

脊髄管狭窄症

アルツハイマー型認知症

## 事例

- ▶ 平成28年7月明日香に入居、身の周りのことはほとんど自立され、洗濯たたみや台所の片づけ、買い物等の社会参加があったが、21年1月転倒により右大腿骨転子部骨折により入院、退院後明日香に戻られる
- ▶ 病院の医師からは痛みは個人差があるが、術後の状態は良く歩行に問題ないとのことだったが意欲低下が見られ、歩行に対する痛み恐怖心からリハビリも思うように進まず、食欲低下、ADL低下の状態施設に戻られた。移乗へは依存が強く車椅子使用、食事は半分以下でもう食べれないと残すことが多く、食事以外の時間をほとんど活動はなく尿意が低下し失禁が増えた。食事以外居室で横になり、介助への依存も強く見られた。

## 気持ちに寄り添うアプローチの提案

- ▶ Fさんは、骨折前は身の周りの事は、ご自身で行なえており、洗濯物の片づけ台所仕事などの社会参加が見られていた。以前のような環境では身の周りの事を行なうのが難しく、何より意欲低下が大きかった。そこで以前の生活を思い出し、Fさんが、大切にしていた事、楽しみや得意な事に注目し行えるための環境づくりの見直しをした。担当職員を中心にセンター方式を用いて行動状態、原因背景を探り、アイデア・工夫を職員間で話し合った。

## 私の大切な事・楽しみ

いつもきれいでいたい  
お化粧したい

椿の花が好き  
写真を撮るのが好き

食器拭きは  
自信がある。



本当は自分で  
やりたい

## 食器拭きは自信がある。

- ▶ 以前は台所で行なっていた食器拭きを行なえる取り組み
- ▶ **ステップ1** フロアの席で行なえるよう、タオルや食器かごを毎日セットした。最初のうちは「貸してみな」と手伝って下さることもあったが、気乗りしないことも多く、職員もセットを忘れることもあった。徐々に意欲的に取り組む日も多くなり、自ら「持ってきてきな」と言って下さる日もあった。
- ▶ **ステップ2** 台所に誘導し座って行える環境を作った。移動手段には車椅子、歩行器を用意することで、その日の痛みや気持ちに配慮した。毎日の役割事になったことで、表情も良くなり、感謝の言葉に「こんなことぐらい誰でも出来る」と笑顔も多くなった。

## 椿の花が好き 写真を撮るのが好き

### ▶ 庭へ出るきっかけづくり

- ▶ 以前から好きだった花を見に行く時間を作り、写真に撮ったり、摘んだ花を一緒にお部屋に飾ったり、趣味を通しての関わり作りを強化した。最初は車椅子を使用したか、回復に伴い自ら車椅子から降り、手を伸ばして椿の花を選ばれるようになり、好きなことを楽しむときは痛みが聞かれることはほとんどなかった。必ずと言っていいほど「ありがとね。」とお礼をいってくれた。



## いつもきれいでいたい お化粧したい

- ▶ 化粧を楽しめる環境づくり
- ▶ 歩行器にかごを設置し、必要な口紅、クリーム等いつでも使えるようにした。時々忘れていた事もあるが、入浴後や起床後などのタイミングで活用できるようになり「今日もお綺麗ですね」の言葉に「何にもつけてないよ」と笑顔で答えてくれる日が多くなった。

# 本当は自分でやりたい

- ▶ 痛みにした環境改善
- ▶ Fさんの動きを確認すると、骨折をした右足に力がかけられない、足が前に出せない状態だったため、歩行器を用意し、ベッド柵はL字に変更した。最初はすぐそばにあったソファーに足を3・4歩動かすことから始め、徐々に歩行器の距離をのぼした。ベッドからの立ち上がりもなるべく見守りを行った。段階的に痛みは軽減し立位や歩行のバランスも改善した。

## 食事形態の見直し

- ▶ 普通食から柔らか食へ
- ▶ 食事量が減ってしまった事によって、栄養状態も悪く食欲低下も続いていた為まず栄養補助飲料を出すようにした。また柔らかいものは比較的すすみもよかったため、食事形態を普通食から、柔らか食へ移行した。こんなに食べれないという事も多く、その都度量の調節や本人の好むあんパンなどの嗜好品もだしていった。半年かかり食事量も増えていった。



## 取り組みの評価と気づき

- ▶ 取り組みに対して思うように結果が出ない時、本人が気乗りしないことが多いと、職員が環境づくりやささり気ない誘導を行わない差が出てきました。小さな配慮とあきらめない継続が、本人の意欲に繋がりが徐々に統一した関わりがとれました。認知症をもった利用者さんは毎日のように骨折したことを忘れてしまい、なぜこんなに痛いのか毎日悩みます。意欲低下が食欲低下に繋がります。普通に考えるリハビリしたらもとに戻るが通用しません。そんな中グループホームならではの出来る力に注目した生活リハビリを中心に色々な角度から心のリハビリをアプローチすることで、ADL,QOLの改善に繋がりました。自分で行なう事、人から感謝されることが今後の意欲にも大きく繋がっていくのだと思いました。これからも利用者さん1人1人に合わせた支援とチームケアを大切にしていきたいと思いました。